



今月は「台湾」を覚えてお祈りください

1945年に当時中国大陆を本拠地とした中華民国の統治下に入り、1949年に中華民国政府が台湾に移転した。近隣諸国としては、東及び北東に日本、南にフィリピンがある。首都は台北市である。大合併により成立した新北市は、台北市及びその外港である基隆市を囲む大都市圏を包含し、2015年時点では同島で人口最多の都市である。コロナの発生率を非常に低く抑えたことで、世界的な注目を集めている。アメリカ合衆国と接近し、中国本土との対立から、国際関係における動向に注目が集まる。

台湾の経済・政治・宗教について

世界屈指の輸出国となるために経済が工業によって急速に発展した。特にハイテク産業が盛んである。最も多く取引をしている国は中国本土である。

台湾は1895年～1945年まで日本の支配下にあった。その後中国の一部となった。中国本土は1949年に共産主義の下になったが、台湾は中国国民党の避難所のようなところとなり、中国を代表するところだと主張した。この結果台湾は国際外交から孤立し、国内では政党間での激しい対立が生じた。1987年まで台湾は一党制の政治だった。今では複数の政党によって治められている。今日、国民のアイデンティティは『第一に台湾人、第二に中国人』となっていて、中国にあって台湾人であることを誇りとしている。

台湾には信教の自由が認められている。国民の多くは中国的な混合宗教である、仏教、道教、そして台湾の民族宗教を信じている。混ぜ物の少ない仏教を信じる者の数も比較的増えてきている。

台湾のその他の情報

面積:36,000 km² (日本の約9.5%) 人口:23,561,660(日本の約18.5% 2010年時点)



2010年まで世界最高層のビルであった「台北101」



原住民の伝統衣装を身にまとったブヌン族の踊り手

宗教:	
中国宗教	60.74%
仏教	28.80%
キリスト教	5.82%
無宗教	2.31%
その他	1.90%
土着・イスラム・バハイ	0.43%

「まことに、国々の民の神々はみな、むなし。しかし主は天をお造りになった。」
詩編 96:5
祈禱課題

政治的に開かれているものの霊的に閉ざされている台湾を覚えて

台湾におけるミニストリーは難しく実が結ばれるまでに時間がかかる。福音宣教を鈍化している要因はいくつかある。

福音に対する反発は強く実際に存在し、今までの生き方を変えてイエスに従うことは大きなチャレンジだ。教会間の一致を求める調教派的な祈り会が頻繁に催されているが、もっと必要である。国民の多くはキャリアアップや子どもの進学を考えていて、社会的な成功を遂げたい人が多い。そのために物質主義的な考え方がキリストの福音の敵となっている。クリスチャンになっても実生活におけるきよめや神への献身度が非常に低い。また、教会にはより多くの働き手やフルタイムの教職者が必要である。クリスチャン人口の大部分は都市部に集中しており、国の隅々まで福音を届けることが課題となっている。

特に福音を必要としているグループを覚えて

台湾の労働階級は言語的にも文化的にも福音派の教会から孤立している。このグループは国民の60%を構成しているが、近年の政治と経済の変化によって彼らの生活は苦しくなっている。

客家(ハッカ)族は自分たちの言語と文化と宗教を守ろうとして教会の影響が十分に行き届いてない。60,000人いるとされているイスラム教徒は「回教徒」(フイ)だが、彼らに働きしているキリスト教のミニストリーがない。ポンフー列島には93,000人が住んでいる。迷信を敬う人々が多く、以前は教会開拓がなされていたが、列島にあるいくつかの教会は閉鎖してしまった。また、台湾全体で7組中1組が国際結婚という統計があり、ベトナムや中国本土から嫁いで来る女性が約320,000人いる。台湾のこのような人々が福音を信じることをできるように。